

## ベースエッジビベリング（回転性を高め、ターンの導入をしやすくするために）

●ベースエッジビベリングはフラットな滑走面のスキーに行なうことに意味があります。

必ずフラットチェックを行なってからにしてください。

ベースエッジビベリングとは、滑走面側のエッジに回転しやすい角度をつけることです。スキーヤーの体格、足の骨格、技術、コースの雪質、条件、競技種目などによってその角度は異なりますが、スキーの性能を引き出すために重要な作業です。カービングスキーの登場でエッジの早い切り替えが可能になりましたが、ベースエッジビベリングによってスキーの方向付けが良くなり、とくにトップとテールのビベリングによりターンの始動と後半のスキーの抜けが良くなります。トップとテールのベースエッジビベリングは、スキーの操作性にとって非常に重要なポイントとなります。ターン弧の大きい種目（DH,SG）になればなるほどベースエッジビベリングの角度を大きく、ビベル長を長くします。エッジの切り替えの速い種目は、エッジビベリングの角度を小さく、ビベル長を短くします。

## &lt;ワールドカップレーサーのサービスマンが行なう参考例&gt;

カービングスキーでの両足同時操作テクニックによる滑りがしやすいように、インエッジとアウトエッジは同時に仕上げます。

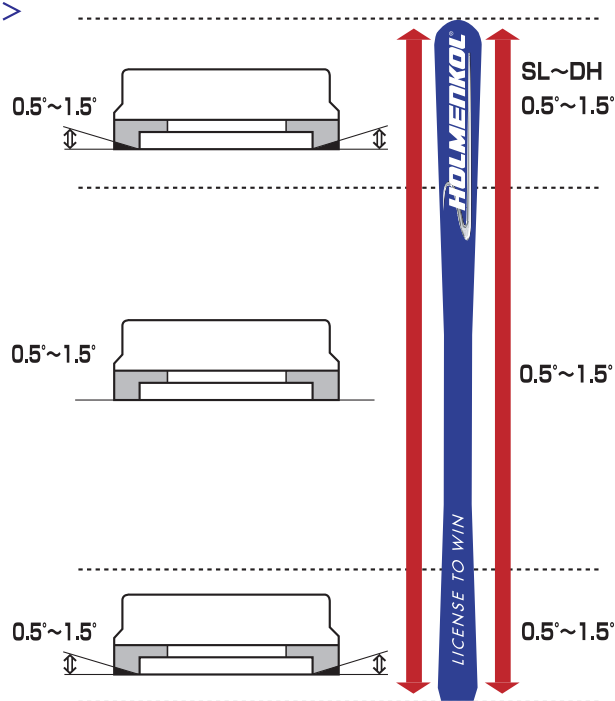
## ■ 参考例

種目	トップ～テールのベースエッジ角度
DH	1.0° ~ 1.5°
SG	1.0° ~ 1.5°
GSL	0.7° ~ 1.0°
SL	0.5° ~ 0.7°

※女性の場合は膝関節の構造上、シェーレン（ターン前半にトップが開く）になりやすいので、大きめの角度をつけると良いでしょう。

※ジュニアの場合は骨格の成長期にあるので、大きめの角度をつけると良いでしょう。

※チューンナップしたら、まず滑ってみることで、回しやすさを判断して自分に合ったチューンナップを見つけて下さい。



① レーシングファイルを目的角度のベースエッジ ファイルガイドに差し込みます。



② エッジをファイリングします。このときトップ部分とテール部分は大きめの角度のガイドを使用します。※エッジを片方ずつファイリングする場合は削る方向はどちらでも構いません。



③ エッジのバリ取りは、サンディングラバーで仕上げます。※バリ取りをしながらエッジ全体を磨いて下さい。（往復させても可）これにより滑らかになり、滑るエッジになります。